

**頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム
平成 26 年度採択事業にかかる事後評価結果**

整理番号	R2606
代表機関名	名古屋工業大学
主担当研究者所属部局	工学研究科
関連研究分野	無機化学
主担当研究者	猪股 智彦
事業名	分子性金属システムによる酸素と窒素の化学のための戦略的国際研究網の構築

I これまでの事業実施により得られた成果

(1) 人的交流を通じた国際研究ネットワークの構築・強化についての評価

評 点 3
コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・計画していた4名の派遣に対し、最終的に300日以上派遣した者が3名（ポスドク3名＝316日、306日、304日）、300日未満の者が1名（准教授1名＝180日）となった。 ・計画していた4名の招へいに対し、最終的に9名の招へいとなった。 ・当初計画の人数を若干下回る派遣実績となったが、派遣された若手研究者は充実した研究成果を上げ、国際研究ネットワークの強化、拡大につながる成果を得ている。招へいについては、当初計画を超えて多くの研究者を日本側参画機関に受け入れている。ネットワーク作りに積極的に取り組み、活発に活動を展開したと判断できる。 ・しかしながら、達成目標に掲げたものは非常にレベルの高いもので、派遣研究者と招へいされた研究者間でこれらの内容が本当に共有され、ネットワークが構築されたかについては疑問の余地がある。 <p>以上のことから、期待される成果は概ね達成していると判断できる。</p>

(2) 国際共同研究課題についての評価

評 点 3
コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・到達目標は、金属錯体研究において現在最も注目されている領域の一つである。設定された5つの課題が非常に挑戦的であったこともあり、ある程度研究目標に向かった成果を上げているものの、十分達成しているとは言えない。 ・相手側との国際共著論文数は計6報と計画を下回っているものの、論文総数は55報であり、高レベルの雑誌に多数発表がなされており、招待講演などの数も多く、実質的な事業期間を考慮すると高く評価できる。 <p>以上のことから、期待される成果は概ね達成していると評価できる。</p>

II 今後の展望

評 点 2
コメント

・若手派遣研究者は限られた期間内でそれぞれの課題に向かって積極的に取り組んだことがうかがえるが、到達目標が難しいこともあり、残念ながらインパクトのある研究成果を上げるには至っていない。

・本来の成果集積が今後可能となることが期待される。今回築き上げた研究ネットワークを基礎にして、外部資金獲得など継続して高レベルの共同研究が展開できる意欲的計画立案とその実現を期待したい。

以上のことから、今後の展望はある程度評価できる。

総合的評価

評 点 3

コメント

・実施計画は着実に実行され、国際ネットワークの強化は概ね達成されたと言えるが、達成目標に掲げた研究課題は非常にレベルの高いもので、派遣研究者と招へい研究者間でこれらの内容が本当に共有され、ネットワークが構築されたかについては疑問の余地があり、更なるネットワークの充実が今後の発展の鍵と言える。

・当初予定の研究成果も得られつつあり、若手研究者には今回築き上げた研究ネットワークを基礎にして、更に研究を展開し、学術的に活躍していくことを期待したい。

以上のことから、総合的に概ね高く評価できる。

※評点に対する標語は下記の通り。

【I (1)、(2)】

4=十分達成している 3=概ね達成している 2=ある程度達成している 1=ほとんど達成していない

【II、総合的評価】

4=高く評価できる 3=概ね高く評価できる 2=ある程度評価できる 1=ほとんど評価できない